

令和6年度 学校評価書

教育目標：個性を伸ばし、創造力を豊かにして、共に生きる社会に貢献する人間を目指す 「進取」「自律」「融和」

1 学力向上と学習指導の充実（教務情報課）

十分に達成した（A） やや達成した（B） 少々達成できなかった（C） 達成できなかった（D）

重点目標	具体的取組事項	評価方法及び評価指標	取組状況・達成状況	次年度に向けての改善策
（１）新教育課程を円滑に運用するとともに、授業改善と観点別評価による指導と評価の一体化を図る。	①正確に科目選択および成績処理が行われるよう点検を徹底する。授業研究週間を通じて授業改善や評価の在り方を研究する。 ②面談週間の実施と学習時間調査を実施する。 ③「高校生のための学びの基礎診断」を積極的に活用し、生徒の学習習慣や学力の現状を把握して学習習慣の定着を図る。	①授業研究週間をベースに置きながら、普段から、教科内あるいは教科を超えて、観点別評価による指導について研鑽をすすめる。 ②目安の学習時間を設定し、学習時間調査による達成度をチェックする。 ③学びの基礎診断を教員、生徒にフィードバックするとともに今後経年比較を行う。	① 全年次とも、3観点評価による評価を通して生徒の学習状況を捉え、中間、期末の節目に生徒へ学習の指針をフィードバックしていただいた。 ② 丁寧に面談を実施いただいた。学習時間調査の結果として、1年次は〈まだまだ改善の余地あり〉、2年次は〈進路実現のためにも全体的な底上げの必要があり〉、3年次は〈前回と比べ学習意欲が低下傾向、また、休日の学習時間においては学習している人としていない人の差が激しい〉であった。 ③ 「高校生のための学びの基礎診断」を春と夏に実施した。クロームブックを使った解答入力を行った結果、生徒への結果返却のスピードが向上した。業者の分析を、生徒および教員に対し対面でレクチャーいただいた。 【B】	①進路志望と生徒個々の実態を踏まえ、科目選択がスムーズに行われるよう各年次進路探究課と協力していく。 ②生徒の成績と学習時間について、個々に見るとともに、年次傾向を分析し、適時の指導を教員全体で共有していく。 ③「高校生のための学びの基礎診断」後の生徒の学習の改善を、強化してはならない。今年度、年次で、事後の補強の課題配信も行ったが、取り組み状況は決して良いとは言えない。学校生活の中での授業や進路志望に応じた＋αの重要性を、進路探究課と年次と足並みそろえて、計画的に指導と評価をしていかなくてはならない。
（２）ICTの活用による魅力ある授業づくり（個別最適な学びと協働的な学び）	①学習支援システム（スタディーサプリ）を活用した個別最適な学びについて研究する。 ②ICTの活用、協働的な学習に関する事例を共有	①学習支援システムの利活用について、科、課、年次等様々な場面を通して推進する。 ②校内におけるICTの効果的な利活用や探究的な学習に関する実践について事例を共有する。また、	①スタディーサプリは様々な場面で用いられている。科目の履修生徒への長期休みの課題や、生徒個々が復習場面に動画を視聴するなどである。 ②授業研究週間を通して、相互に参観したり、教科における協議の場	① Wi-Fi のルータの増設で体育館や特別教室等、つながるエリアが環境が広がった。使用中、一部、回線が切れるという報告があったが、原因がはっきりせず様子を見ている。 ② 次年度、さらに授業研究週間の有効活用を推進し、教科内や教科を超

を推進する。	する。	学校評価アンケートにおいて ICT に係るプラスの評価 80%以上を目指す。	を設定したりした。また、学校評価のアンケート結果は 74%であった。(前年度 68%) 【B】	えた実践を参観したり、研究したりできるように呼び掛けていく。
(3) 読書活動を通じて、視野を広げ社会の一員として学ぶ姿勢の育成を図る。	①朝読書の指導計画や指導体制を学校全体で共有する。 ②図書委員の主体的な活動の場を積極的に設けるとともに、図書委員を通じて図書館利用を促進する。	①朝読書も含めて年間 10 冊以上を読破するよう指導する。 ②学校評価アンケートにおいて図書館に係るプラスの評価 70%以上を目指す。	① 年間の読書数平均は、5.2 冊(12 月時点)であった。朝読書については、年次によっても差があり、開始に間に合わない生徒や、学習課題をするなど、徹底していないという中間反省を受けて、年次で様子を見ていただき、指導についての意向を聞いた。後期間の状況も踏まえ、次年度の取り組みについて課内でも検討した。 ②本の貸し出しの他に、生徒の学習の場として、環境整備に努めた。図書館に係る評価は 62%であった。(前年度 57%) 【C】	①朝読書の呼びかけを図書委員の生徒が丁寧に毎朝呼び掛けている。次年度の読書全般について、スムーズにスタートを切れるよう、今年度のうちに、準備を進める。方向性として、名称はこのままで、内容面で流動的に朝読書、朝学習、自学、進路学習など、旬にあった内容にする。各年次と課とが協力しながら、時間の過ごし方を指導していく。 ②さらに、利用しやすい図書館について、図書委員会で検討し、生徒目線での利用のしやすさを踏まえ改善していきたい。

2 キャリア教育の推進（進路探究課）

十分に達成した（A）やや達成した（B）少々達成できなかった（C）達成できなかった（D）

重点目標	具体的取組事項	評価方法及び評価指標	取組状況・達成状況	次年度に向けての改善策
(1) 進学・就職それぞれにおいて、より効果的に3年間一貫した指導を推進する。	①キャリア教育の一環として、外部講師も活用した親子進路説明会および生徒向けのガイダンスを適切な時期に実施する。 ②3年次個別指導を全職員で行うにあたり、年次と連携して指導担当者への必要な情報提供を行い、個々の生徒に効果的で適切な指導を行う。 ③SSP（本校オリジナル手帳）の活用を促し、生徒の自主的な進路活動に繋げる。	①進路ガイダンスの事後アンケートで有効性を評価する。 ②生徒の指導状況について職員間で情報共有できたか。 ③生徒の記入の様子や行動の変化・成長で確認する。	①4月PTA総会時に3年次は進路別親子説明会を、1年次は9月7日（土）に親子総合学科説明会開催。2年次は10月26日（土）に親子進路説明会開催、全体会はオンライン（各教室で）。 ②履歴書の記載の表現方法（特に資格等）の情報共有を行った。職員定数が減っている中、生徒に手を掛けている。 ③金曜日の朝読書の時間を利用して記入させている。主体的に活用している生徒は少数ながらいる。 【B】	○1年次説明会の半日開催の内容（進路・年次） ○R7年度から生徒手帳とSSPを一体化 ○授業、SHR、LHR、毎週金曜日の朝読書の時間を利用し、SSPを主体的に活用する生徒を育成するための声掛け（朝読書・授業担当・担任 継続）、
(2) 第一志望達成に向けた進学指導ならびに、民間就職・公務員指導を円滑に進める。	①生徒の特長を生かして希望達成に向かわせる。指導力向上のため研修会への参加を奨励する。国公立大をはじめとした難関校希望者への早期指導を実施する。特に2年次後半からは、年次と連携してK&Mチーム（国公立大学志望者・医療看護系進学希望者へのグループ指導）を行う。 ②1年次後半から3年次まで継続して、外部講師を招聘した公務員講習や就職ガイダンスを行い、生徒の意識高揚を図る。民間就職は希望職種に応じた事業所の情報を共有し、適切に受験先を決定させる。	①学びの基礎診断が、スタディサプリの活用や生徒の基礎学力の向上につながったか。 ・K&Mチームについて効果や継続性を重視し、年次、教科と検討しながら実施できたか。第一志望合格率80%以上が達成できたか。 ②就職内定100%、公務員試験合格率70%以上が達成できたか。 ・受験結果に応じて適切な事後指導ができたか。	①スタディサプリア導入初年度にしては、活用状況良好。（数学・情報・英語・1年次）。K&Mの括りではなく、進学向けの個別指導にも活用。 ②民間就職希望者へ計3回のセミナーを実施し、職業意識の醸成を促すとともに、雇用情勢について関係機関と情報交換を行った。昨年度に続き求人票閲覧システム「Handy進路指導室」を活用した。7・8月に外部講師を招いて模擬面接を実施したことは効果的であった。 民間就職内定率100%（34名） 公務員試験全受験に対する合格率31.4%、公務員希望者20名のうち、公務員11、民間1、公務員専6、未定2（いずれも進学希望） 【B】	○各教科担当者及び、年次担当者の課題配信を奨励する。4月、8月の到達度テストとの連動課題を週1回配信して取り組ませる（1、2年次）。3年は生徒個々の進路に応じて自主的に取り組ませる。 ●1年次活用度テスト（無料）に挑戦したが、個別最適な出題にミスなく解答させるにはWeb受験が最適。インターネット環境が障壁になっている面がある。 ○公務員二次試験対策に手が回らなかったことがある（受験者合格者ともに多数だったため）ので、システムの検討が必要。就職試験の再受験が必要な生徒への手立てについては保護者とのさらなる連携が必要。（3年次、進路）

(3)「産人および総合的な探究の時間」を核とした、3年間の体系的な探究学習を推進する。	①年次と連携し、3年間を見通した探究型学習「TONARI プロジェクト」(始動3年目)を軌道に乗せる。 ②生徒の探究テーマが進路達成に役立てられるよう年次のサポートを行う。	①講師の手配や必要に応じた外部との連携など、活動のサポートを行うことで各年次の探究活動が円滑に進んだか。 ②生徒の希望する進路が達成できたか。	①TONARIプロジェクトについて、年次と進路の連携は概ね取れて計画通り進行している。今年度から2年次は通年で1テーマに。3年次進学希望者は9月18日発表会実施。 「課題設定」の指導に時間をかけた。進路希望が明確な生徒は探究テーマの設定も進路に関連している。協働的な学びから得るものも大きいようだ。 【B】	○2年次の探究型学習発表会に向けた指導(進路・2年次・アドバイザー) ○先生方の研修についての情報提供を継続(進路) ○校外発表の場を引き続き検討する(進路) ○R7より探究ノート(年間)の導入(進路) ○「探究」を活用して進路希望を達成した生徒が増えた。 B
--	--	---	---	---

3 生徒指導及び特別活動の充実・強化（生徒保健課） 十分に達成した（A）やや達成した（B）少々達成できなかった（C）達成できなかった（D）

重点目標	具体的取組事項	評価方法及び評価指標	取り組み状況および目標の達成状況	次年度に向けた改善策
(1) 生徒自らが企画し、主体的に参加・運営する生徒会活動・特別活動を推進する。	①生徒一人一人に自己指導能力を身に付けさせる。 ②生徒会を中心にあいさつ運動を推進する。 ③各種委員会の自主的活動を推進する。 ④地域貢献活動に積極的な参画を促す。 ⑤部活動の主体的な活動、参加を促す。 ⑥多様化する社会の中で生徒の自発的な要望、活動を支援する。	①学校教育評価アンケートで評価する。（生徒） ②あいさつ運動への参加回数等で評価する。 ③生徒会活動・行事等への参加に関する生徒のSSP等への記入状況・内容により評価する。 ④ボランティア活動への参加回数等で評価する。 ⑤部活動の加入率と大会成績等で評価する。 ⑥生徒からの要望等に対し、生徒・教員による対話や議論がなされたか学校教育評価アンケートで評価する。（生徒）	①自ら考え行動する生徒が少数ではあるが見受けられる。 ②生活委員を中心にクラス・部活動単位であいさつ運動を企画・運営した。学評生での達成度は50%と低い。 ③行事等への取り組みは計画通り実施できたが、生徒の主体的な取り組みについては、各委員会で差があり全体の取り組みになっていない。 ④ボランティアへの参加回数 R5 年度 1 年 100 回・2 年 107 回・3 年 42 回 R7 年 1 月 20 日現在、1 年 24 回・2 年 112 回・3 年 86 回の参加で、1 人 1 回参加率は 57.5%であった。 ⑤部活動任意加入初年度 92.7 の生徒が部活動に加入した。加入状況はある程度達成できている。 ⑥生徒会の生徒と生徒心得について話し合いを持ったが、具体的な要望が少なかった。学評生 91% 【C】	①学評生での達成度 80%である。他者の主体性を尊重しながら自ら考え行動することができるようサポートする。 ②概ね達成できた項目はあるが、なお一層生徒の主体的活動となるよう指導する。 ③SSP の使用について年次で異なるため評価できなかった。生徒の自主的な活動を推進するために時間と指導について再考する。 ④概ね昨年同様の参加率となっている。生徒会中心にボランティア活動の意義を生徒に浸透させるとともに呼びかけを継続する。 ⑤生徒に目的、目標を持たせ主体的に取り組めるよう指導する。 ⑥前期執行部、後期執行部と連携し具体的に進める。
(2) 心身ともに健康的で規律ある学校生活を確立する。	①基本的生活習慣を身に付けさせるため、家庭と協働して指導することで生徒自らが行動できる能力・態度を養う。 ②スクールカウンセラーによる健康相談を充実させる。 ③健康診断や各種検査の事後指導の徹底を図る。 ④定期的な身だしなみ点検を行い、清潔感ある服装となるよう指導する。	①欠席、遅刻、早退の回数等で評価する。 ②健康相談を年間 18 回以上実施できたかで評価する。 ③健康診断後の精密検査受診率が向上しているかどうかで評価する。 ④身だしなみ点検の実施状況と個別に指導を受けた生徒者数により評価する。	① 出席率は昨年同時期と比較し向上しているが、常習的に遅刻が多い生徒が複数いる。（規範意識の希薄さが、目立つ） ② ほぼ計画通り実施した。 ③内科的疾患の精密検査は、概ね順調に報告がなされている。 ④身だしなみ点検再検査数は前期 4 回合計で延べ 61 名、9 月～1 月 4 回合計で延べ 75 名。合計 136 名で男子は延べ 14 名、女子は延べ 122	①家庭と年次で連携を密にし、基本的生活習慣の確立を目指す。 ②計画通り実施できた。 ③精検受診勧告書を再度配布したり個別指導を通して徹底を図る。 ④身だしなみ点検は必要だが、普段の学校生活における身だしなみの指導について学校全体

	⑤携帯電話の使用ルール・時間の遵守できるよう啓発活動・管理指導を行う。	⑤生徒・教員による啓発活動の実施状況と生徒の意識や実態の把握に務める。学校評価アンケートも活用する。（生徒）	名であり、課題は女子生徒への指導ということがわかる。 ⑤携帯電話の校内での利用時間についてはある程度守られているが、所持については徹底していない部分がある。学評生 96% 【D】	で共通理解のもと指導していくことが必要。 ⑤学評生での達成度が非常に高いが、重点的な指導期間を設けて指導する。
(3) 個に応じたきめ細かい生徒指導・支援体制を確立する。	①生徒指導上の問題の共有化を図り、年次やヘルスサポート委員会、いじめ防止対策委員会等と連携・協働しチーム支援による組織的対応をしていく。（バッテリーM2 の活用） ②生徒の安全・安心を確保できる生活環境と生徒間トラブルの未然防止に努める。	①生徒指導上の問題等に対して、情報の共有、連携・協働した校内連携型支援チームによる対応ができたか評価する。 ②いじめアンケート調査や問題行動数の把握等から評価する。	①各年次における問題点等については、生徒保健課と年次で情報の共有化を図りながら進めることができた。 ②いじめアンケートやスクールサイン等からいくつかの生徒間トラブルが発生しているが、重大事案はない。また、原因の究明と共有化を図りながら進めている。 【C】	①② いじめを許さない雰囲気づくりに努め、いじめの対応にあたっては、より一層の組織的対応ができるよう、共通理解のもとに取り組みを進めていく。また、共感的な人間関係の育成に努める。
(4) 安全に対する意識の高揚を図る。	①交通ルール・マナーの遵守、自転車走行上注意等に関する効果的な安全教育・安全管理により生徒の安全を確保する。 ②家庭・地域との協力により登下校時の生徒の安全の確保に努める。 ③交通安全委員等の恒常的な自主的活動を促す。	①事故件数・苦情件数等の前年・前々年度の比較や安全管理に関する各種取組の充実度で評価する。 ②学校評価アンケート（生徒）・（保護者）で評価する。 ③交通安全街頭指導や交通安全委員会の活動回数等により評価する。	①1月20日現在、交通事故は（7件）・苦情件数は（14件）と昨年度（交事3件・苦情4件）の総数より多い。交通安全指導については、機会を捉えて行った。 ②働き方改革の方針を踏まえ、外部との関係の在り方については検討を深めている。学評生 96%、学評保 77%と差がある。 ③生徒の自主的な活動は安全面の確保という観点から難しい。 【D】	①今後も機会を捉えて交通ルール・マナー遵守等に対する啓発活動を行っていく。 ②PTAとも協力しながら、交通安全に対する意識の高揚を図るとともに機会を捉えて交通ルール・マナー遵守等に対する啓発活動を行っていく。 ③安全面を考慮しながら交通安全委員会を中心とした生徒の活動も積極的に推進していく。

4 安全・安心な学習環境の整備（総務広報課）

十分に達成した（A）やや達成した（B）少々達成できなかった（C）達成できなかった（D）

重点目標	具体的取組事項	評価方法及び評価指標	取組状況・達成状況	次年度に向けての改善策
(1) 安全点検を実効あるものにし、安全・安心な学習環境を整備する。	① 月1回の安全点検の結果を、校内グループウェアなどを活用して全職員で共有し、学習環境の整備に努める。	① 安全点検の確実な実施と公表、点検で確認された異常箇所の修理・修繕等の状況により評価する。	① 月に一度の安全点検の実施と結果の共有を、確実に行うことができた。修理・修繕も、事務部の協力によりスムーズであった。 【B】	① 今後も安全点検を確実に実施することで、学習環境整備への意識を高め、安心な学校生活を送れるよう心がけていく。
(2) 防災及び情報セキュリティについて、一人ひとりの危機管理意識を高める。	① 年2回の防災訓練のうち一回は「シナリオ提示型」、もう一回は「抜き打ち」訓練を行い、より実効性あるものにする。 ② 情報セキュリティの強化を図るための情報提供及び職員研修を行い、問題発生皆無を目指す。	① 危機管理委員会を開催し、防災訓練の成果と課題を検討する。また、学校評価アンケート（生徒）で防災訓練の成果を測る。 ② 情報セキュリティに関する問題発生状況及びその対応で評価する。	① 6月に「シナリオ提示型」（予告あり）10月に「ブラインド型」（予告なし）を実施した。職員の防災組織も確認をした。アンケートの「緊急の際安全に避難できる」と答えた生徒は91%と高評価であった。 ② 情報セキュリティに関する問題は、今まで発生していない。 【B】	① 効果的な防災指導・防災教育について検討し、「緊急時には安全に避難できる」という生徒の自信をさらに高めたい。 ② 『緊急時対応マニュアル』の点検・改定の際に、情報に関する危機管理また犯行予告に関する掲載を検討する
(3) 安全に対する意識の高揚を図る。	① 各PTA専門部、生徒保健部と協力しながら、校内行事等における安全指導を徹底する。	① 安全指導の状況及びその対応や学校評価アンケート（生徒）等で安全に対する意識が高まったか評価する。	① マナーアップ運動、天童夏まつり、植栽活動など、各PTA専門部と協力しながら安全・安心に活動することができた。 【B】	① 今後も各PTA専門部と共に校内行事等を安全、安心に実施し安全に対する意識、さらに災害に対する危機管理意識をも高めたい。

5 家庭や地域との連携強化と情報発信（総務広報課）

重点目標	具体的取組事項	評価方法及び評価指標	取組状況・達成状況	次年度に向けての改善策
(1) 校外の様々な地域ボランティア活動を通じて、「地域に貢献し、地域と共に歩む心」など、社会に貢献する力を育てる。	① 全校で一人一ボランティアの活動を推進し、地域貢献活動を行う。特に、地元開催の「天童桜まつり」や「天童夏まつり」に積極的に参加する。	① 生徒のボランティアの総数で評価する。（一人平均一回以上を目指す。） ② 学校評価アンケート（生徒）（保護者）により、ボランティア活動・地域貢献活動の成果を測る。	① 「天童桜まつり-人間将棋」24名参加、「天童夏まつり」に43名参加、「天童神輿祭り」に9名参加してくれた。ボランティア延べ回数は222件参加人数126名（1月末現在）た。1人1回参加率は57.5%であった。 ② アンケート「ボランティアや社会貢献活動は活発」は（生徒：72%、保護者82%）で昨年度よりプラス評価が増えている。 【B】	① 活動可能なボランティアや地域活動の機会を逃さず情報発信し、生徒の地域貢献意識の向上に活かしていかなければならない。 ② 学校評価ではプラスの評価であるが実際の状況は昨年度よりボランティア参加率は下がっている。

(2) 保護者等と連携し、学校行事やPTA諸行事を円滑に実施する。	① PTA諸行事の出席率70%以上を目指す。 ② 学級減に伴い、PTA諸活動がスムーズできるように努める。また評議の人数も検討する。	① PTA諸活動の参加率により評価する。 ② 各専門部の役員の意見を集約し、対応することで評価する。	① 第1回PTA評議員会(4月)の参加率は81%、PTA総会参加率、1年60%、2年39%、3年46%で全体では48%であった。PTA総務部参加率62%であった。PTA評議員会懇親会を開催し、今後の活動について確認することができた。 ② PTA役員の活動はスムーズにできた。学校祭ではレモネードスタンドを行った。 【B】	① PTA諸活動が再開し、各PTA専門部員が様々な活動に、積極的に参加している。今後も、マナーアップ運動、PTAだより編集など、早めに案内を出し、参加しやすい環境づくりをしたい。また、PTA懇親会等で親睦を深めたい。 ② 意見を集約することはなかなかできなかったがPTA独自の活動を今後も展開していきたい。
(3) 生徒の活動をはじめ、学校の教育活動に関する情報を積極的に発信する。	① 興味深く魅力的なホームページを目指して、適切かつ積極的な更新を心がけ、生徒・学校の活動が見えるような情報発信に努める。 ② ホームページ年間運用計画を作成し、全職員が一人1回以上、かつ年間総更新数50回以上を目指す。	① 学校評価アンケート(保護者)でホームページの情報発信について評価する。 ② 計画に従って一人一回以上更新し、年間50回以上の更新を行ったかで判断する。	①保護者アンケート項目「ホームページ等でそのつど適切に伝えられる」92%と高評価であった。 ②ホームページ年間運用計画に基づく更新について、担当者への連絡はしているが、更新できない部分もあった。12月までの更新状況は、更新26/44(計画)であった。年間計画以外の更新が26件あり、合計52件の更新であった。 【C】	①②今後もホームページを適切な更新のため運用計画を見直していく。また授業や部活動などについても積極的に更新できるように検討していく。インスタグラムも発信している。